集中連載④

問題の本

「イベルメクチン 世界の臨床医の証言」を読む

▽奥野修司（おくの・しゅうじ）「ナツコ 沖縄密貿易の女王」で大宅壮一ノンフィクション賞と講談社ノンフィクション賞を受賞。最新刊に「認知症は病気ではない」（文春新書）。

4人の日本人医師がイベルメクチンでコロナ患者を治療

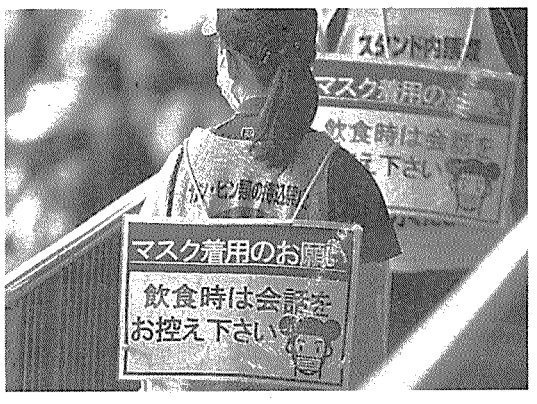
日本で新型コロナの患者をイベルメクチンで治療していた医師がいたことは不覚にも知らなかった。「イベルメクチン 世界の臨床医の証言」（南東舎）には、実際に治療した4人の医師が現場の状況を報告している。そのひとりが、兵庫県尼崎市でクリニックを開業しつつ多くの著書を世に出している長尾和宏医師である。

長尾氏によれば、3000人以上の新型コロナ患者を診察し、200人以上の新型コロナワクチンによる後遺症を患った患者の治療に当たってきたそうだ。イベルメクチンの投与を受けた患者は延べ300人を超え、「全例が著効ないし有効であった」という。実際、患者に投与すると「翌日の改善率はほぼ100%だった」そうだ。

イベルメクチンの効果はそれだけではなかった。2021年秋から、新型コロナワクチンの後遺症に苦しむ患者が次々とクリニックを訪れるようになり、長尾氏はすべての患者にイベルメクチンを勧めている。「有効率は6～7割だった」という。米国で設立された新型コロナ救命治療最前線同盟（FLCCC）の報告と一致したことに驚いたという。

それにしても、海外ではイベルメクチンで治療しようとする医師は見えざる力で妨害されたのに、日本ではなぜ使えたのか。長尾氏によれば、「2020年のコロナ治療ガイドラインには治療薬としてイベルメクチンが載っていた」という。

この状況が一気に変わったのは2022年9月だった。突如として「イベルメクチンの使用は禁止された」のだ。それを通達したのは国ではなく、「レセプト保険者（医療機関からの診療報酬請求を審査・支払いする組織）から『使用を認めない』と」返されたそうである。それは「事実上の使用禁止」だった。



それまで治療を認めていたのに、突然の禁止で長尾氏は慌てたが、イベルメクチンを使用した理由で医師免許を剥奪されたり、罰金を科されたりといった海外で報告されているような圧力を受けたわけではなかった。比較的穏やかだったのは、イベルメクチンは大村博士らによって日本で生まれたことや、日本では医療機関に診療報酬を支払う組織がNOといえば、医師は服従せざるをえないからだろう。それにしても、日本が誇るイベルメクチンをなぜ使わせたくなかったのだろうか。

本書によると「イベルメクチンの新型コロナに対する効果は、その後も99の研究、27カ国で証明されている」ことで、「イベルメクチンは、製薬業界にとって大きな脅威となった」とブラジルの著名な医師が報告しているが、その可能性は否定できないだろう。

2023年、京都大学名誉教授の福島雅典医師らが、国はファイザーやモデルナなどの製薬会社とどんな契約書を交わしたのか、開示すべきだと東京地裁に訴えた。そして昨年10月、地裁は厚労省の不開示の決定を取り消す判決を下した。実際に開示されたら、前回書いたように、製薬会社が「イベルメクチンを使用しないよう指示した」ことが事実かどうかわかるかもしれない。

（つづく）

冬季五輪の長時間視聴

ミラノ・コルティナ冬季五輪も、いよいよ終盤戦。日本人選手の活躍をテレビの前で熱心に応援している人も多いはずだ。五輪が終わっても3月に入ればワールドベースボールクラシック（WBC）が開幕する。当面はテレビやスマホにかじりつくという人も少なくないだろう。寒さと乾燥、花粉飛散が重なるこの時季のテレビの長時間視聴で気を

マイボーム腺梗塞 注意したい

「マイボーム腺とは、目の表面の水分の蒸発を抑えて目が乾燥しないための脂の分泌腺を言います。マイボーム腺梗塞はそれが詰まる病気です。この病気になると脂が目の表面にたまり、霰粒腫（さんりゅうしゅ）と呼ばれるしこりができたり、炎症を起こします」

主な症状には、まぶたのしこり、目の表面のゴロゴロ、痛みを伴う充血などがあります。

「冬は空気が乾燥していて、暖房により目の周りの湿度が下がり、マイボーム腺から分泌する脂が固まりやすい。さらには寒さで血行が悪くなり、まばたきの回数が減り、マイボーム腺からの分泌液の流れも悪くなります」

特に2月は花粉が飛び始める時季。アレルギー性結膜炎を発症しやすく、炎症により涙が目の表面にとどまりにくくなってドライアイを引き起こす。その多くは、マイボーム腺小

症状が強い場合は眼科医へ

では、マイボーム腺梗塞を予防するにはどうしたらいいのか？

「基本は温めて脂を出すことです。蒸しタオルや市販のホットアイマスクなどでまぶたを温め、固くなった脂を溶かすことでマイボーム腺の出口を開きやすくします。40度程度の微温で1回5分から10分程度、1日2～3回を目安に行います。〝少し熱いな〟と思う程度が理想です。温めたあとはまぶたの縁を清潔に保ちます。専用の洗浄剤や医師が指導する方法で優しく汚れを落としましょう」

症状が強い場合や自宅ケアで改善しない場合は、眼科医で治療を受ける。マイボーム腺内の脂肪を出す処置や点眼薬や内服薬を組み合わせた治療が行われるという。

なお、まぶたの縁に見える黄色の脂のかたまりの先端が、つるっとした膜のように見えることがあるが、これはマイボーム腺内で脂

（マイボーム腺内にある脂を作る工場のような場所）の萎縮は加齢と関係していることが報告されている。

研究ではマイボーム腺小

ヤコンタクトレンズの使用

齢やホルモンバランスの変化・食生活の乱れによって分泌脂が粘着性を帯びるなど質の低下が関係することも。

出します。そもそも冬場に

体を動かさず、寒さを抑えるため脂っこい食事をとりがちです。加えて深夜まで長時間テレビ視聴を続ける

で気を

がある

梗塞」

のか？

「自由

京・目

院長に

固まりやすくなる

出口に

たまります。そこに酸化した脂質や角化した上皮、涙に含まれるタンパク成分などが混ざることで、薄い被膜のような構造ができて、光沢のある〝膜〟に見えるのです」

こうした変化は病的な状態であり、放置するとマイボーム腺萎縮やドライアイ、眼瞼縁炎の長期化につながる場合もある。

今年は冬季五輪後も3月にWBC、4月に米国の大リーグや日本のプロ野球、6月はサッカーのワールドカップとスポーツイベントが目白押し。テレビ観戦で目を酷使する可能性が高い。異変を感じたら眼科医に相談することだ。

健康志向の新食材

血糖値や体内時計を大きく変化させないわ

サゴはヤシ科植物「サゴヤシ」の幹から採取されるでんぷんで、東南アジアやオセアニア地域では古くから主食として食べられてきた食材です。インドネシアやマレーシアなどでは数千年前から重要な食料として利用され、麺や団子などさまざまな料理に加工されています。

近年ではグルテンを含まない炭水化物として注目されているほか、栽培時の環境負荷が比較的低いことから、持続可能な食資源としても関心が高まっています。

最近では、マンゴーサゴやココナツミルクサゴなど、アジアの伝統的なスイーツにサゴを使ったレシピの人気が高まり、もちもちとした食感を楽しめる食材としてカフェやデザート店でも利用が広がっていますよね！ グルテンを含まない点や消化のよさから、健康志向の新しい食品素材としても注目されています。

さて、そんなサゴの特徴のひとつに、でんぷんの粒が比較的大きく、体の中でゆっくり消化吸収される点

が、

でん

糖値

かに

した

計へ

ろ、

ツマ

し、

しに

分か

質か

値の

帯に

性が

また

品と

いて

す。

た

サゴ

など

検討

考え

時計

分泌

血糖

それ

リン

があ

るた

体を

長時

がち

ること

した

ンテ

もに